

学会報告

科学技術社会論学会 第3回年次研究大会

高橋祐一郎

2004年11月13日(土)～14日(日)にかけて、金沢工業大学・野々市キャンパスにおいて、科学技術社会論学会(JSSTS: Japanese Society for Science and Technology Studies)(略称: STS学会)の第3回(2004年度)年次研究大会が開催された(1)。

科学技術と社会の界面に生じるさまざまな問題に対して、トランス・ディシプリナリー(超領域的)な視野から、批判的かつ建設的な学術的研究を行い、その成果を広く社会と共有し、相互に討議するための場と機会を提供することを目的として(2)、2001年に設立された本学会は、近年の科学技術と社会の関係の深まりや社会のための科学技術のあり方といった課題への期待などが背景となって、会員数が増加傾向にある。大会での発表申し込み希望も増加しており、昨年の大会では3カ所であった会場数は、本大会では5カ所に拡張された。

今年度の大会は、研究成果の発表と研究に関心のある人々との議論の場を提供する学会大会本来の目的に加え、学会としての共通認識を深めることを目指すものとしている。プログラムは、大きく分けて次の三つのセッションで構成された。広範的・総括的な議論が可能な「社会的合意形成とコミュニケーション」「科学技術とリスク」といったセッション、限定的・ケーススタディでの議論となるが、会員には共通した課題となる「STS的に科学技術白書をどう読むか」「科学技術政

策/科学技術者社会論関連研究助成金制度をめぐる」といった企画セッション、「食とリスクの問題圏」「開かれた科学技術政策過程の制度化」といったホットトピックに関して会員が企画するワークショップ・オーガナイズドセッションである。

また、上記のセッションのほか、ユニークな三つのサブセッションが実施されたので、紹介する。

「Work-in-Progress」

主に大学院生やSTS分野に新しく入って来た研究者に、今後の研究に役立ててもらうため、すでに完成した研究の成果発表ではなく、修士論文・博士論文などの研究計画や構想、中間発表について、発表者とセッション参加者とが意見交換を行う場としてのセッション。

「Meet the Board」

理事会と一般会員の間のコミュニケーションを促進するため、学会全体の運営に関する事など、会員の率直な意見や要望を理事に直接伝え、率直な意見を交換する場としてのセッション。

「Meet the Editor」

本学会の学会誌に投稿を考えている研究者と、学会誌編集委員会事務局が、論文の規定などについて意見交換する場としてのセッション。

ちなみに、後二つのセッションは、昼休みに食事を取りながら議論するという、当研究所の「おにぎり・おむすび懇談会」と同様のスタイルで実施された。

次回の年次大会は名古屋大学において開催の予定である。

1 本学会のプログラムは以下 URL に公開されている。

<http://wwwr.kanazawa-it.ac.jp/ACES/2004meeting/program.html>

2 科学技術社会論学会規約第3条から抜粋。なお、規約の全文は以下 URL に掲載されている。

<http://www.cs.kyoto-wu.ac.jp/jssts/content/view/8/>